

13. 長野県内の小中学校における神経性無食欲症および食行動異常の実態調査

杉山英子（長野県短期大学生生活科学科健康栄養専攻）、横山 伸（長野赤十字病院精神科）

キーワード：神経性無食欲症、摂食障害、有病率

要旨：厚生労働省の研究班における全国疫学調査の一環として、長野県における小中学生の神経性無食欲症（Anorexia Nervosa: AN）の有病率を初めて調査した。児童総数 35,763 人（男子 18,388 人、女子 17,375 人）の中で、疑い例も含め女子 15 人、男子 4 人の AN が認められ、有病率にすると 0.086%、男子 0.022% であった。中学生については、生徒総数 56,369 人（男子 28,889 人、女子 27,480 人）の中で、疑い例も含め女子 47 人、男子 4 人の AN が認められ、有病率にすると 0.171%、男子 0.014% であった。

A. 目的

昨年の本会において、長野県の高等学校における摂食障害疫学調査の結果を報告した。長野県の高校生の神経性食欲不振症の有病率は、大都市圏の高校生とほぼ同水準であることが明らかとなった。成長期と重なる学童期においても、摂食障害は心身の成長を妨げ、骨粗しょう症のリスクをもたらすなど、子どもたちの将来の心身の健康状態を障害する恐れがある。東京では、小学校 3 年生の患者がいることが報告されており¹⁾、全国的に摂食障害の低年齢化が進んでいるとの指摘もある²⁾。全国の摂食障害の実態を把握するために、厚生省の研究班では有病率調査を進めている。本調査はその一環であり、本県においても同様の問題が存在するのかどうかについて小中学生を対象に調査し、実態を把握し今後の対応策を考える基礎資料を得ることを目的として行ったものである。

B. 方法

2013 年 1 月から 2 月にかけて、長野県下の全小中学校を対象に、アンケート調査を実施した。

養護教諭を対象に質問票を送付し、①過去 5 年間に医療機関で摂食障害の診断を受けた児童・生徒数、②摂食障害として現在医療機関を受診している児童・生徒数、③現在、摂食障害が疑われ、医療機関を受診している児童・生徒数、④現在、摂食障害が疑われているが医療機関を受診していない児童・生徒数を回答してもらった。

本調査は、長野赤十字病院倫理委員会の承認と長野県教育委員会の了解を得て行った。

C. 結果

(1) 小学校

長野県下の全小学校 380 校に書面により調査を依頼し、うち 349 校から回答を得た（有効回答率 86.3%）。

児童総数 35,763 人（男子 18,388 人、女子 17,375 人）が養護教諭の回答の対象となった。養護教諭が把握し

ている神経性食欲不振症の患者及び疑い例の数は、女子が 15 人、男子 4 人であった。これらの結果を表 1 および表 2 に示した。長野県における神経性食欲不振症の有病率は、小学校 2 学年の平均で、女子 0.086%、男子 0.022% で、人口 10 万人あたりに換算すると女子 86 人、男子 22 人であった。学年別でみると、人口 10 万人あたり小学校 5 年生女子 69 人、男子 22 人、小学校 6 年生女子 104 人、男子 22 人であった。

表 1 長野県の小学校女子における AN の有病率（2012 年）

	5 年	6 年	計
医療機関において AN と診断された者	3	4	7
AN の疑いで医療機関を受診している者	0	4	4
AN が疑われるが医療機関を未受診の者	3	1	4
計	6	9	15
児童総数	8746	8629	17375
有病率 (%)	0.069	0.014	0.086

表 2 長野県の小学校男子における AN の有病率（2012 年）

	5 年	6 年	計
医療機関において AN と診断された者	0	0	0
AN の疑いで医療機関を受診している者	2	0	2
AN が疑われるが医療機関を未受診の者	0	2	2
計	2	2	4
児童総数	9222	9166	18388
有病率 (%)	0.022	0.022	0.022

(2) 中学校

県下のすべての中学校 195 校に調査を依頼し、うち 177 校から回答があった（有効回答率 87.2%）。

生徒総数 56,369 人（男子 28,889 人、女子 27,480 人）が養護教諭の回答の対象となった。養護教諭が把握している神経性食欲不振症の患者及び疑い例の数は、女子が 47 人、男子 4 人であった。これらの結果を表 3 および表 4 に示した。長野県における神経性食欲不振症の有病率は、中学校 3 学年の平均で、女子 0.171%、男子 0.014% で、人口 10 万人あたりに換算すると女子 171 人、男子 14 人であった。学年別でみると、人口 10 万人あたり中学校 1 年生女子 121 人、男子 0 人、中学校 2 年生女子 153 人、男子 21 人、中学校 3 年生女子 239 人、男子 21 人であった。

表 3 長野県の中学校女子における AN の有病率（2012 年）

	1 学年	2 学年	3 学年	計
医療機関において AN と診断された者	7	7	15	29
AN の疑いで医療機関を受診している者	3	2	3	8
AN が疑われるが医療機関を未受診の者	1	5	4	10
計	11	14	22	47
生徒総数	9120	9165	9195	27480
有病率 (%)	0.121	0.153	0.240	0.171

表 4 長野県の中学校男子における AN の有病率（2012 年）

	1 学年	2 学年	3 学年	計
医療機関において AN と診断された者	0	0	0	0
AN の疑いで医療機関を受診している者	0	1	0	1
AN が疑われるが医療機関を未受診の者	0	1	2	3
計	0	2	2	4
生徒総数	9631	9658	9600	28889
有病率 (%)	0.000	0.021	0.021	0.014

D. 考察

我が国でこれまで実施された摂食障害の疫学調査は、医療機関ベースと学校ベースの調査に大別することができる。摂食障害のように症状があっても医療になか

なかつながらない事例が多い疾患については、学校ベースの調査の方がより実態を把握できるのではないかとわれてきた。前回の高校生、今回の小中学校の児童生徒集団を調査してみた結果、養護教諭対象のアンケート調査という手法は、学校現場の多忙な現状に照らしても、高い回収率が得られ、かつ、それぞれの教諭の判断による「未受診であるが疑われる」患者の申告もなされており、妥当な結果が得られたものと考えている。

先行して行われた 2010 年度の同様の調査によると、首都圏における神経性食欲不振症の女子の有病率は、小学 5~6 年生：0.014%、中学 1 年生：0.089%、2 年生：0.175%、3 年生：0.398% であった。人口 10 万人あたりに換算すると、小学 5~6 年生：14 人（86 人）、中学 1 年生：89 人（121 人）、2 年生：175 人（153 人）、3 年生：398 人（239 人）（括弧内は長野県の人数）となる。本県においては、中学校 2、3 年は首都圏より水準は低いが、小学校高学年、中学校 1 年では首都圏を上回っていることがわかった。また、長野県の小中学校における有病率は、2012 年度に同様に調査された熊本県の有病率³⁾を上回っていることもわかった。

E. まとめ

長野県の神経性食欲不振症の有病率は、先行調査した首都圏とほぼ同水準であり、熊本県よりはやや高い水準であることが明らかとなった。

小児の摂食障害の場合、医療と教育が連携し、成長期の摂食障害の予防につながる教育的活動（食育）を進展させていくことが重要であると考ええる。

F. 利益相反

利益相反なし。

文献

- 1) 鈴木（堀田）眞理他 東京都の高校の養護教諭へのアンケートによる神経性食欲不振症の疫学調査. 日本心療内科学会誌 17(2)：81-87 2013
- 2) 野添新一他 若年化、遷延化する摂食障害患者の問題と支援. 心身医学 45：218-223 (2005)
- 3) 間部裕代他 中枢性摂食異常症の疫学調査研究—熊本県の小中高生における疫学調査— 第 17 回日本摂食障害学会・学術集会 プログラム・抄録集 95 (2012)